

企画展

芥川龍之介 百回忌によせて



「河童忌」を振り返る――

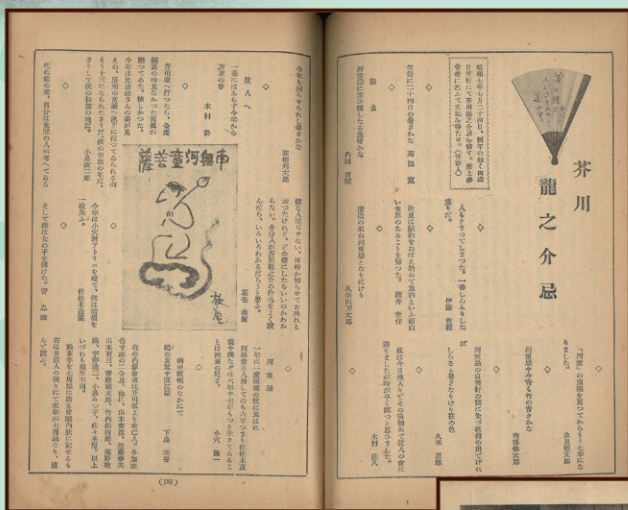
友よ安らかに眠れ！

菊池寛「吊辞」

芥川龍之介の生涯に、最後の清浄なものを自分は感じた。
室生犀星「最後の清浄さ」

それにしても『河童忌』とはだれが命づけ、だれがいひだしたのか？

久保田万太郎「河童忌」



入場無料

六回忌を紹介する記事『文藝春秋』昭和7年9月号
「河童忌」(芥川龍之介忌)に集まった文士・芸術家の俳句や画が掲載されている。

2026年

6月6日(土)

9月19日(土) ※休館日を除く

開館時間：10:00～17:00
(入館は16:30まで)

会場：田端文士村記念館

JR山手線・京浜東北線「田端駅」北口より徒歩2分

休館日：月曜日(祝日の時は火・水曜)、祝日の翌日(土・日の時は翌火曜)

【主催・問合せ】(公財)北区文化振興財団 田端文士村記念館 ☎03-5685-5171 【共催】東京都北区 【協力】鎌倉市



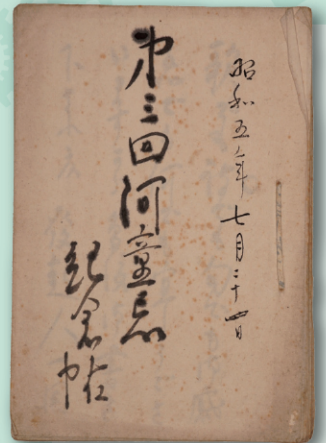
八回忌の報道記事『時事寫眞新報』昭和9年7月26日

芥川龍之介百回忌によせて —「河童忌」を振り返る—

令和8年7月24日は、芥川龍之介の百回忌にあたります。龍之介の忌日は、生前好んで河童の画を描いたこと、晩年の代表作に「河童」があることから「河童忌」と呼ばれています。

龍之介没後、親しい友人や文士たちが田端の料亭・天然自笑軒で催した偲ぶ会も「河童忌」と呼ばれていました。この会は、昭和3年から昭和18年まで毎年欠かすことなく行われ、現在は当館が世話役となり、引き継いでいます。

本展では、「河童忌」の歴史を辿り、没後も続いた菊池寛や久保田万太郎らさまざまな文士たちと龍之介との心の交流を紹介します。



「第三回河童忌記念帖」 昭和5年7月24日

※鎌倉文学館蔵 写真提供：鎌倉市
佐佐木茂索旧蔵の「河童忌」芳名帖を初めて一堂に展示。
※前期(～7月31日)・後期(8月1日～)で展示する頁が変わります。



初公開

「掛仏」※個人蔵

生前は龍之介の二階の書斎に掛けられていたこともある。

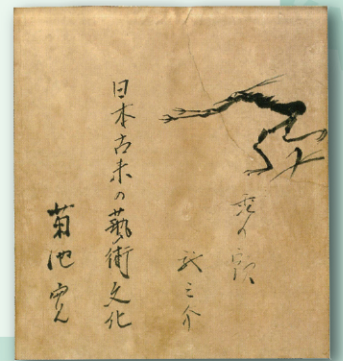
初公開

「芥川龍之介一周忌写真」※個人蔵

一周忌法要は命日より一か月早い、6月24日に行われた。妻・文と長男・比呂志が手を合わせる様子が写っている。

「芥川龍之介・菊池寛 合作色紙」

「河童忌」継続の立役者となった菊池寛との寄せ書き。龍之介の描いた河童は晩年の作とされる。



芥川比呂志『綴り方集』より 「お父さんのおはかまわり。」 昭和3年1月31日

比呂志が小学校2年生の時の作文。父の月命日に、家族で墓参した様子が書かれている。

この河童をモチーフにした
クリップも販売中!
500円(税込)



芥川龍之介 扇面歌稿 「水底の小夜ふけぬらし河郎の あたまの皿に月さし来る」

龍之介は河郎(河童)が登場する短歌も好んで詠んだ。

主催・
問合せ

(公財)北区文化振興財団

田端文士村記念館 〒114-8523 東京都北区田端6-1-2 ☎03-5685-5171

JR山手線・京浜東北線「田端駅」北口より徒歩2分 ※駐車・駐輪場は隣接の有料施設をご利用ください。

<https://kitabunka.or.jp/tabata/>

✉ @bunshimura



北区立 芥川龍之介記念館 建設工事の進捗報告

2027年夏、龍之介が暮らした田端に記念館が誕生します。北区では、記念館完成までの歩みを定点観測し、その工程を北区公式ホームページで公開しています。第1弾は「棟上げまでの軌跡」です。何もなかった土地に、少しずつ“記念館のかたち”ができあがっていく過程をぜひ一緒に見届けてください。

【お問合せ】 北区文化施策推進課 ☎ 03-5390-0093 (平日8:30～17:15)



詳しくはこちら



建設現場の様子